



100台を超えるライトで構成される、TBSの照明演出

## クリエイター向けノートPC「DAIV」× Vectorworks Spotlight Showcaseの活用事例

TBSアクトのスタジオ照明部では、現在プリビズ工程の重要性に着目し、Vectorworks SpotlightのShowcase機能を活用した新たなワークフローの構築に取り組んでいる。数百台の照明機材を扱う負荷の高い作業において、クリエイター向けPCには何が求められるのか。照明演出の最前線と、マウスコンピューター「DAIV」の導入効果について話を聞いた。

TEXT\_kagaya (ハリんち)

### リアルタイムシミュレーションで 現場での迷いをなくす

**高谷知宏氏 (以下、高谷)**：私は現在、TBSアクトのスタジオ照明部で『CDTV ライブ！ライブ！』をはじめとした音楽番組を中心に、ムービングライトのオペレーターや、フロアでの照明づくりを担当しています。

— どういったツールを使用していますか？

**高谷**：主に3つのツールを使用しています。まずはVectorworks Spotlightです。灯体（照明機材）をどこに配置するか、どのアドレスや回路で制御するかといった情報を盛り込んだ「仕込み図」づくりに使用しています。その他に、DMX（照明制御通信プロトコル）で機材を制御するためのメインシステムとしてMA Lighting社のコンソールのgrandMA3、ビジュアライザーにはL8を使用しています。

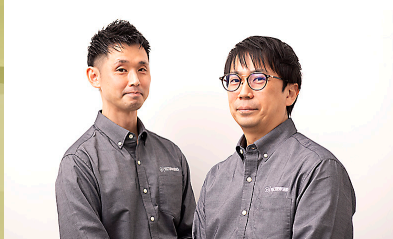
— VectorworksのShowcase機能を活用

しようと考えた経緯について教えてください。

**高谷**：大きな理由は、今後のスタジオ更新やワークフローの変化を見据え、仕込み図作成の段階から“当て感（あてかん）”を確認したかったからです。当て感とは、出演者に対してどの角度から光が当たるか、セットに対して光がどう影響するか、といった距離感や角度のことです。「見せライト（装飾としての照明）」であれば、セットの部材と被らないか、カメラアングルに対してどう見えるかといった確認が必要です。これを2Dの図面だけで判断するのは、熟練の技術者でも難しい場合があります。現場に行ってから「イメージとちがった」、「物理的に光が抜けない」となるのを防ぐため、仕込み図を書いている段階で3Dで確認できるShowcaseが有用なのです。コンソールを接続することで、プリビズをひとつのソフト内で完結できます。つくったデータをみんなで覗き込みながら、「もう少し



**高谷知宏氏**  
株式会社TBSアクト  
スタジオ本部  
スタジオ照明部/  
株式会社TBSテレビ  
(出向)



ベクターワークスジャパン株式会社  
**横山昌弘氏**      **小金谷秀樹氏**  
CXイノベーション推進部      シニアマネージャー  
エンタテインメント  
テクニカルスペシャリスト

内側に向けよう」、「タイミングをコンマ数秒ずらそう」といった議論を重ねます。現場に入る前にゴールをチームで共有し、よりクリエイティブな微調整に集中できるようにする環境づくりを大切にしています。

## 照明演出の最前線で生きる クリエイター向けノートPC「DAIV」

——今回、Showcaseの活用にあたってマウスコンピューターの「DAIV S5-I7G60SR-A」を導入されたそうですね。

**高谷**：今までは主に2Dの作図がメインだったので、そこまで高いマシンスペックは必要ありませんでした。しかし、Showcaseを使って数百台のライトをリアルタイムでシミュレーションすると、マシンパワーが必要です。そこでベクターワークスジャパンのおふたりに相談し、Showcaseが快適に動くスペックのノートPCとして提案していただいたのがこの「DAIV」でした。

——PCのパフォーマンスはいかがですか？

**高谷**：非常に快適です。私が個人で所有しているノートPCも一定のスペックのパーツが搭載されているのですが、Showcase

の機能を試した際には、動きをつくったときにカクつきが出たり、光の残像が残ってしまったりすることがありました。一方、DAIVでは非常に滑らかに動くのでストレスが全くありません。約100台のライトを動かしながら、ウォークスルーで視点を変えてもスムーズです。

**横山昌弘氏（以下、横山）**：私も横で見せてもらいましたが、描画がとても滑らかでしたね。PCのスペックが低いと、ライトが点灯しなかったり、動きについてこれなかったりすることがあるのですが、DAIVは照明の計算処理をしっかりとこなしていました。

——なぜそこまでの差が出たと思われますか？

**小金谷秀樹氏**：CPUとGPUのバランス、そして放熱設計の良さが効いているのだと思います。GPU単体がハイスペックなだけではなく、バランスの良いCPUと組み合わせていること、そして長時間負荷をかけた際の安定性です。DAIVはこれらが優れていると思います。

——今回、ノートPCを導入されたのにも理由が？

**高谷**：持ち運べるのが必須条件でした。

オフィス内、副調整室（サブコントロールルーム）、スタジオなど、様々な環境で仕込み図作成を行うためです。また、これからは他のスタッフと画面を覗き込みながら「この明かりをもっと内側に」といった修正を副調整室でも行えるようになると思います。特に気に入っているポイントは、テンキーがある点です。私たち照明の仕事は、機材のアドレスや調光のパーセンテージなど、数値を入力する作業が多いためです。ショートカットキーを割り当てたりもするので、テンキーがあるのとないのでは作業効率が段ちがいです。

——最後に、高谷さんの今後の展望についてお聞かせください。

**高谷**：今後は、プリビズの精度をさらに上げて、現場での作業時間を短縮しつつ、よりクリエイティブな部分に時間を割けるようにしたいです。また、Vectorworks SpotlightとTouchDesignerを連携させるなどして、映像と照明、リアルとバーチャルが融合した演出にももっと挑戦していきたいです。そうした新しいワークフローを構築する上で、ハイパフォーマンスなノートPCは欠かせないパートナーになると思います。



### DAIV S5-I7G60SR-A

OS	Windows 11 Home 64ビット
CPU	インテル® Core™ Ultra 7 プロセッサー 155H
GPU	NVIDIA® GeForce RTX™ 5060 Laptop GPU
メモリ	32GB (16GB×2/デュアルチャンネル)
ストレージ	1TB (NVMe Gen4×4)

[www.mouse-jp.co.jp/store/g/gdaiv-s5i7g60sraudw102dec](http://www.mouse-jp.co.jp/store/g/gdaiv-s5i7g60sraudw102dec)

### Vectorworks Spotlight

舞台やテレビの照明、美術に特化した機能を持っており、精度の高い2D図面作成と、高品質な3Dビジュアライズを1本で完結できるソフトウェア。世界中の主要な照明機材のデータがライブラリとして搭載されており、配置した機材のデータを元に、必要な電源容量の計算や機材リストの作成まで行える。

### Showcase

「仕込み図を作成しながらリアルタイムに照明のシミュレーションができる機能です。従来、照明デザインのフローにおいては複数のツール間を行き来する必要がありましたが、ユーザーからの強い要望を受け実装されることになりました。コンソールを直接接続することができ、新たなワークフローを実現します」(横山氏)

